

ホ-マイコート

HOMAI

登録番号 第13684号

種類名 チウラム・チオファネートメチル水和剤
thiram・thiophanate-methyl

殺菌剤分類 M3, 1

性 状 類白色水和性粉末 45 μm以下

有効年限 4 年

有効成分 チウラム 10.0%、チオファネートメチル 10.0%

毒 性 普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)

包 装 1 kg×10袋

■特 長

1. 予防効果に優れ浸透性が高い殺菌剤です。
2. 抗菌スペクトラムが広く、各種病害の同時防除が可能です。
3. 固着性のある製剤で、休眠期防除と種子消毒に安定した効果があります。

最新の登録内容、
SDSはこちら

■適用病害名及び使用方法

(2024 年 10 月 7 日現在)

作物名	適用病害名	希釈倍数 又は 使用量	使用液量 (ℓ /10a)	使用時期	本剤の 使用回数	チウラムを 含む農薬の 総使用回数	チオファネート メチルを含む農 薬の総使用回数	使用方法	
なし	黒星病	50倍	200 ～ 700	休眠期	1 回	5 回以内 〔休眠期は 1 回以内〕	11回以内 〔塗布は 3 回以内、 休眠期の散布は 1 回以内、灌注は 1 回以内、生育期 の散布は 6 回以内〕	散 布	
かき	うどんこ病	50 ～ 100倍				2 回以内 〔休眠期は 1 回以内〕	10回以内 〔塗布は 3 回以内、 休眠期の散布は 1 回以内、生育期 の散布は 6 回以内〕		
	炭疽病	50倍							
もも	縮葉病	50 ～ 100倍				5 回以内	6 回以内 〔塗布は 3 回以内、 休眠期の散布は 1 回以内、生育期 の散布は 3 回以内〕		
すもも	ふくろみ病					3 回以内	5 回以内 〔塗布は 3 回以内、 休眠期の散布は 1 回以内、生育期 の散布は 1 回以内〕		
ぶどう	黒とう病 晩腐病 つる割病					50倍	3 回以内 〔休眠期は 1 回以内、 生育期は 2 回以内〕		5 回以内 〔塗布は 3 回以内、 休眠期の散布は 1 回以内、生育期 の散布は 1 回以内〕
	枝膨病								
稲	いもち病 ごま葉枯病 ばか苗病 苗立枯病	種子重量 の2 ～ 3%	—	浸種前	1 回	3 回以内 〔種子への処理 は 1 回以内〕	種子粉衣		
大麦	斑葉病			は種前		3 回以内 〔種子への処理は 1 回以内、出穂期 以降は 1 回以内〕			
きゅうり	炭疽病					6 回以内 〔種子への処理は 1 回以内、は種後 は 5 回以内〕			
アスター けいとう べにばな	苗立枯病					5 回以内			

作物名	適用病害名	希釈倍数 又は 使用量	使用液量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤の 使用回数	チウラムを 含む農薬の 総使用回数	チオファネート メチルを含む農 薬の総使用回数	使用方法
チューリップ すいせん グラジオラス	球根腐敗病	球根重量 の2～3%	—	植付前 又は 貯蔵前	1 回	1 回	5 回以内	球根粉衣

△ 効果・薬害などの注意

1. 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
2. 種子粉衣（球根粉衣）は適当な容器の中で均一に種子（球根）に粉衣するように少量ずつにいねいにまぶしてください。花の場合は湿粉衣はさけてください。
3. 花の種子粉衣の場合の使用薬量は、種子の形状によって付着量が異なるので所定薬量の範囲内で加減してください。
4. 本剤はフザリウム菌、リゾクトニア菌及びペニシリウム菌による苗立枯病及び球根腐敗病に対しては有効ですが、他の病原菌による発病地帯での使用はさけてください。
5. 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
6. 水稻の種子消毒に使用する場合には次の注意事項を守ってください。
 - (1) 種子消毒は浸種前に行ってください。
 - (2) 粉衣処理は付着をよくするため、あらかじめ種子を湿らせ（塩水選、水切り後などが適当）湿粉衣としてください。
 - (3) 薬液処理した種籾は少なくとも数時間は放置して風乾後、水洗せずに浸種してください。
 - (4) 浸種は停滞水中で行ってください。
 - (5) 浸種の浴比は1：2とし、水の交換は原則として行わないでください。但し、液温が高い場合等、酸素不足になるおそれがあるときには、静かに換水してください。
 - (6) 粉衣処理をした種子を育苗箱には種する場合は、浸種終了後、浸種液中で過度の付着薬剤をゆすぎ落としてからは種してください。
7. 消毒後の球根は水洗せず植付けるか、貯蔵してください。
8. 本剤で処理した種子等は、食糧や動物用飼料に使用しないようにしてください。
9. 本剤を使用した場合には、ペノミルを含む剤を使用しないでください。ただし、種子への処理、種籾への処理及び塗布処理は除きます。
10. 使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

△ 安全使用上の注意

11. 取扱いには十分注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせてください。使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けてください。
12. 眼に対して強い刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けてください。
13. 皮ふに対して刺激性があるので皮ふに付着しないように注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
14. 薬液調製時及び使用の際は、保護メガネ、防護マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用してください。また散布液を吸いこんだり浴びたりしないように注意し、作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。
15. 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
16. かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。

水産動植物への影響：水産動植物（魚類）に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。養殖池周辺での使用はさけてください。水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

保管：密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、小児の手の届かない冷涼・乾燥した所に保管してください。

【農薬をご使用の際は】

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載以外には、使用しないでください。
- 小児の手の届く所には、置かないでください。
- 空容器・空袋は圃場などに放置せず、適切に処理してください。